

令和2年は「挑」の年に

新

年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、令和になって初めての、希望に満ちた輝かしい新春を迎えられ、謹んでお慶びを申し上げます。

また、旧年中は、市政運営に對しまして、深いご理解並びに温かいご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年の干支は「子(ネズミ)」。ネズミは生命力が強い動物であり、子宝に恵まれるというイメージや、新たなチャレンジから大きな成果をもたらすというような意味もあるようです。

私も市長として3年目を迎えるようとしています。これまでの市政運営で培った経験を生かし、さまざまな新しい試みに挑戦していきたいと気持ちを新たにしたいところです。

新しいことに挑戦する年

新年を迎え、私は今年の抱負を「挑」の漢字一文字で表現しました。

この「挑」という字には、これまでの既成概念にとらわれず、新たなことに挑んでいく、という強い意志を込めています。

市長になってから1年半余りが経ち、多くの事業に取り組んできました。その過程では、多くの市民の皆さんと話す機会があり、たくさんのご意見や、ご提案をいただきました。そういった声をまちづくりの反映すべく努めてまいりました。

しかしその中で、どうしても行政の力だけでは解決できないこと、打ち破れない「壁」のようなものの存在を感じていました。「行政はこうあるべきだ」「行政はこうでなければならぬ」といった既成概念が大きな壁となつて、目の前に立ちちはだかっている気がします。

その「壁」をどうにかして打ち破りたい。行政の限界を突破したい。そのためにはどうしたら良いか。私は発想を転換しました。民間企業や大学などと

タッグを組み、その先進的な考え方や技術的な資源をまちづくりに積極的に取り入れ、活用していくことができないか。そうすることで、行政の抱える問題の解決につながったり、これまでに成しえなかったことを実現できるのではないかと。そう考えるようになりました。

そして、それによって得られたものを市民の皆さんに還元していけたら、素晴らしいことではないかと。

今年は新たな展開が控えています。このつくばみらい市で子どもを生み、安心して育てられる環境づくり、公共交通の利便性向上や交通弱者対策など、喫緊の課題に対する施策を展開していきます。さらには、民間企業とタイアップした新しいコミュニケーション基盤整備の実証実験など、時代の変化に合わせた行政運営を研究していきます。その中で、市民の皆さんにご協力をいただかなくてはいけない場面も出てくると思います。

その「壁」をどうにかして打ち破りたい。行政の限界を突破したい。そのためにはどうしたら良いか。私は発想を転換しました。民間企業や大学などと

そのときはぜひ、力を貸していただければ幸いです。

令和という新しい時代を迎えた今、失敗を恐れず、新たなものに挑戦し、そこから得たものを次に生かしていく。職員の意識改革も含めて、行政と市民が一体となったまちづくりを進めていきたいと思っています。

昨年から始まった新たな試み、「LIVE IN TSUKUBAMIRAI」。このコンセプトに込められた想いでもある、今住んでいる人、これから住もうと思つて人、これから生まれてくる人、すべての皆さんに、この先



の100年間、愛着を持って住んでもらえるまち。そんなまちづくりに挑んでいきたいと、強く、思いを新たにしておりますので、本年もどうぞよろしくお願いたします。

つくばみらい市長

小田川 浩